

外国語学部

【国際言語学科】

1. 教育理念と人材育成の目的

外国語学部は実践的な外国語教育、とりわけ英語教育とそれを支える日本語教育を基本とし、高度且つ急速にグローバル化する時代に対応した教育活動を展開し、時代と社会の要請に応えようとするものである。

学問的見地からしか外国語教育を見ない考え方は、もはや過去のものになりつつある。言語修得の最大の目的の1つは、異なる文化・環境にある、自分とは異なる存在である人々とのコミュニケーションを可能にさせることにあると言える。如何なる言語もコミュニケーションの手段として存在しているとも言える。

グローバル化が進む社会では、手段としての言語能力の修得が前提としてあり、これにより世界市民としての文化交流や相互理解、更には地球規模のビジネスの場での活躍が可能となる。本学部ではこの事を強く意識し、学修者に現代社会を生き抜く実践的な語学力と知識・智慧を与えるべく、最新のIT技術を活用した授業や、学修者が主体となる変化に富んだ授業を積極的に取り入れて行くこととする。

自在に外国語を駆使出来る人材に対する産業界の要望は日々高まりをみせている。観光を基幹産業の1つとして地域の振興を図ろうとする北海道にとっては、正にこの様な人材の育成が急務である。この事は近年の、外国から北海道を訪問する外国人観光客の著しい増加からも明白であると言える。外国語学部では英米語コースと観光・ビジネスコースを併設するが、いずれのコースにおいても英語を重視する事は勿論、観光を素材としたテーマを、両コースの英語教育の中に多く取り入れている。コミュニケーションツールとしての英語と観光をコアとするビジネススキルの融合を目指す意図である。外国語学部での学びを通じて、世界の舞台で勇気と自信を持ち立ち向かうことの出来る人材の育成を目的とする。

2. 教育課程の基本方針

外国語学部国際言語学科の教育課程の基本方針は次のとおりである。

- ① 本学の地理的特性を生かすために、英米語コースと観光・ビジネスコースを設け、大学での学びと自らの進路が効果的に連動するよう教育課程を編成する。
- ② 語学教育、とりわけ英語教育に力を入れ、英検、TOEIC、観光英検等各種検定受験の取得を推奨することで、教育のアウトプットを可視化する。
- ③ 観光産業に進む際のパスポートとなる、国内及び総合旅行業務取扱試験（国家資格）の受験を推奨することで、実学的な教育実践を可能とする。また、観光・ビジネス系科目を系統的に履修することで、観光ビジネス実務士の資格取得が可能である。
- ④ 学生の主体的な学習能力を育成し、豊かな学生生活が送れるように、1年次に「基礎ゼミ」（必修）を開講している。
- ⑤ 学生の多様な進路に対応するように、キャリア教育関連科目を多数配置している。
- ⑥ 専任教員による言語習得の進捗状況、履修の方法、留学、インターンシップにかかわるフォロー及び学生指導を実施する。

3. 教育課程の構成と概要

上述の目的を達成するために国際言語学科の教育課程は(1)教養科目、(2)専門科目から構成されている。

(1) 教養科目

教養科目は、基礎科目、スポーツと健康、外国語、キャリア教育の4分野から構成される。

基礎科目およびスポーツと健康の分野においては、大学生活4年間の学修に耐えうる基盤を培うだけでなく、社会に出た後も必須となる教養や情報処理能力、プレゼンテーション技術を養う。

外国語分野においては、専門科目としての英語とは別に、重要性の高まる中国語を学修する。また、言語面だけではなく、文化等多角的な視点から世界に対する理解を深める。

(2) 専門科目

専門科目は、外国語学部を卒業した後も言語または観光産業等の専門家として各界で活躍できるように「語学重点」、「英米語」、「All English」、「日本語」、「観光・ビジネス」、「実践」の6分野から成り立つ。

「語学重点」分野では、「多読」「スピーキング」「アカデミックライティング」等を通じて「読む・書く・

聞く・話す」ことを集中的に実践し、並行して「総合英語」「観光英語」「実践英語」を学ぶことで、英検や観光英検、TOEIC等、具体的な英語能力の獲得を図る。

「英米語」分野では、学んだ英語を手段として、自己の主張・目的を達成する能力を養成するため、スピーチやディスカッション、ディベートを学ぶ。

「All English」分野は、英語を媒体として観光を学生主体の授業方法で学ぶ科目群である。ここでは、「世界遺産」「北海道の観光」「国際関係論」「地域研究」等の科目群が配置されている。

「日本語」分野は、英語を学ぶ上での前提となる正しい日本語を理解することを目指す科目群である。日本人が外国語をマスターする際の土台は日本語であり、これの正確な修得なしには第二言語を正しく理解することは不可能だからである。また、中学校及び高等学校の国語科教員を目指す学生には、これら日本語分野科目を履修することが必須となる。

「観光・ビジネス」分野には、本学科2コース制のうちの一つを支える科目群が設置されている。北海道の持つ観光資源を理解し、これを国内外に広く発信し、ビジネスにつなげていく能力を養成する。本分野には国家資格である国内及び総合旅行業務取扱管理者試験に対応する科目群および、民間資格である観光ビジネス実務士資格の取得を可能とする科目群が含まれる。

「実践」分野では各種資格・検定に合格した際に単位認定する「資格・検定Ⅰ～Ⅳ」を配置。また、語学留学及び海外での各種研修等に対応した「国際言語研修Ⅰ～Ⅳ」、大学で学んだ知識を実社会で実践することを評価する「総合実務実践Ⅰ～Ⅳ」を配置する。

4. 履修の方法

国際言語学科を卒業するためには、必修科目18科目34単位のすべてと、選択必修科目20科目40単位の中から18単位以上をふくむ124単位以上を取得しなければならない。

ただし、選択必修科目18単位以上の内訳は次のとおりとする。

(選択必修科目18単位以上) = (選択必修Aの16科目32単位のうち16単位以上) + (選択必修Bの4科目8単位のうち2単位以上)

なお、各年次における履修登録単位は44単位を限度とする。

5. 免許・資格取得を目的とする場合

(1) 教職免許（教職課程については125ページを参照）

本学部は、これまでも教育職員免許法に基づき、免許状授与の所要資格を得させるための課程認定を受けており、国際言語学科においても、卒業単位の他に定める科目の所要の単位を取得することにより次の教職免許状を取得できる。

- ・中学校教諭1種（英語、国語）
- ・高等学校教諭1種（英語、国語）

(2) 観光ビジネス実務士資格

本資格は、観光を成立させている旅行業・宿泊業・交通業についての知識、付加価値の高いツアープランニング・コーディネーターや添乗・接客のしかた、外国人観光客ための英会話などを習得し、観光客と観光業界を中心としたビジネス事業領域で活躍できる人材育成を目指す全国大学実務教育協会による認定資格である。

観光ビジネス実務士資格認定証取得に必要な科目・単位数

1. 必修科目 (2科目 4単位以上)

科目名	単位数	大学における 必修・選択の別	開講時期			履修方法
			1年	2年	3年	
観光概論	2	選択	●			4単位必修
観光ビジネス実務総論	2	選択		●		

2. 選択科目 (I、II、III群からI群4単位以上、II群4単位以上 計20単位以上)

区分	科目名	単位数	大学における 必修・選択の別	開講時期			履修方法
				1年	2年	3年	
I群 観光学 関連分野	北海道観光政策論	2	選択		●		2科目 4単位以上
	世界遺産 I	2	必修	●			
	地域研究 I	2	選択		●		
	地域研究 II	2	選択		●		
	地域研究 III	2	選択			●	
	地域研究 IV	2	選択			●	
	北海道の観光 I	2	必修	●			
ホスピタリティ論	2	選択	●			2科目 4単位以上	
II群 観光実務 関連分野	国内観光業務取扱論 I	2	選択	●			
	国内観光業務取扱論 II	2	選択	●			
	国際観光論 I	2	必修				●
	国際観光論 II	2	選択				●
	ビジネス作法	2	選択		●		
	ホテルビジネス実務 I (宿泊)	2	選択		●		
	ホテルビジネス実務 II (料飲)	2	選択		●		
	航空ビジネス実務 (キャビンアテンダント)	2	選択		●		
	航空ビジネス実務 II (グラウンドホステス)	2	選択		●		
	観光英語 I	2	選択	●			
	観光英語 II	2	選択		●		
	地域観光論 I	2	選択		●		
III群 キャリア・ 教養分野・ 総合的実践 実務分野	キャリアデザイン I	2	選択		●		各群の必要条 件を満たし、 計20単位以上 修得すること
	キャリアデザイン II	2	選択			●	
	日本語の文章表現	2	選択	●			
	総合教養講座	2	必修	●			
	プレゼンテーション概論	2	必修		●		
	情報処理 I	1	必修	●			
	情報処理 II	1	必修	●			
	基礎ゼミ I	2	必修	●			
	基礎ゼミ II	2	必修	●			
	観光ケーススタディ	2	選択			●	
	インターンシップ	2	選択			●	

6. インターンシップ等について

インターンシップについては、基本的にインターンシップを希望する学生の中から、意志も能力もともに高い学生を、提出書類や面接などによって担当教員が厳選する。したがって、各年度において希望する学生の総数や、それらの学生の意志・能力の到達度などから、派遣学生人数は変動することが予測されるが、実習先の事情や状況を考慮する上でも少数精鋭の学生派遣が前提となる。

インターンシップ先は、学生の希望を前提とした業界・分野・領域に関連するあらゆる団体・組織を想定している。したがって、観光産業を例に考えると、観光地のホテルなどの宿泊施設といった企業だけではなく、観光振興や地域振興などを担当する官公庁の部署、NPOやボランティア団体など、営利・非営利の別を問わない。また、一過性のイベントやそれに付随するボランティアなどの活動への参加なども、一定の日数や要件を満たしていればインターンシップとみなす。また、インターンシップ希望学生の外国語能力によっては、海外でのインターンシップも認める。

(1) インターンシップ実施について

インターンシップ先は基本的に学生の希望する派遣先を優先し、またその確保のプロセスも学習の一環として学生が積極的にこれを行う。

(2) 評価方法等

インターンシップの評価は、インターンシップ実施期間中のみならず、インターンシップ先の開拓からインターンシップ終了後の報告にいたる全過程を対象とする。成績評価は、インターンシップ前、インターンシップ期間、インターンシップ後における学生の活動・能力・態度を派遣先の評価や学生の報告などを参考に、評価は教員が総合して包括的に行う。

7. 補完講習について

本学科で推奨している各種検定の取得及び留学生の日本語能力に応じた補完を目的として、以下のとおり講習を配置する。

講習名	受講対象者
英検 2 級特別講習	「総合英語 I」を受講した者で、英検 2 級が不合格だった者。
観光英検 3 級特別講習	「観光英語 I」を受講した者で、観光英検 3 級が不合格だった者。
日本語特別講習 I	入学時に実施する日本語プレースメントテストを受験し、日本語能力の補完が必要と判断した者。
日本語特別講習 II	

8. 進級要件について

(1) 2 年生から 3 年生への進級

原則として、2 年次修了までに卒業要件単位のうち、合計60単位以上修得すること。また、次のいずれかの基準以上をクリアすること。

- ・ 実用英語技能検定 2 級
- ・ TOEIC600点
- ・ 観光英語検定 3 級
- ・ 国内総合旅行業務取扱管理者試験に合格、または、観光ビジネス実務士資格取得に関する科目のうち 18単位

(2) 3 年生から 4 年生への進級

原則として、3 年次修了までに履修すべき全必修科目を含めた合計80単位以上を修得すること。